

令和7年度 日南市立吾田東小学校 学校評価書

4段階評価	4・・・達成（期待以上）	3・・・ほぼ達成（ほぼ期待どおり）
	2・・・不十分（やや期待を下回る）	1・・・改善を要する（期待を下回る）

評価項目	方策・手立て	評価		学校評価	結果の考察・分析及び改善策等
		児童	保護者		
学力の向上	分かる・できるを実感できる授業実践	3.47	3.19	3.19	<p>本校では、本年度から『子ども自らの力を発揮し、互いに高め合うことができる授業の在り方～①・②・③に沿った子どもの学びを支える指導を通して～』を研究主題として、各教員が日々授業改善に取り組んでいる。</p> <p>学力テストの結果をみると、国語と理科は全国・県平均をやや上回り、算数は下回る結果であった。算数の学習においては、3年生以上で少人数指導を行っており、今後もきめ細やかな指導を充実させ学力の定着を図っていく。</p> <p>読書量は、11月末現在全校合計19,624冊で、昨年度同期とほぼ同じである。図書司書との連携、学級文庫の定期的な入替え（市立図書館）等の取組により、読書への関心が高まっていると思われる。</p>
	学びの確かめの充実	3.43	3.29	3.23	
	読書に親しむ習慣の育成	3.41	3.25	3.23	
	作品作りを通した表現力の育成	3.33	3.26	3.23	
豊かな心の育成	寄り添った指導の充実	3.62	3.22	3.36	<p>児童アンケートによるいじめ訴えは、全体として少ない状況にある。これまでの巡回相談に加え、昨年度から配置されたSCによる相談体制も、児童の心的不調の早期発見・早期対応に功を奏している。不登校や登校しぶりの児童はいるものの、生徒指導主事を中心に対応にあたっている。また、外部機関との連携を図りながら継続的に支援を行い、不登校児童の増加を防ぐことができている。</p> <p>基本的な生活習慣については、今後も指導の徹底を図り、「あいさつ・会釈」「無言の場」などの質の向上に努めていく必要がある。</p> <p>昨年度発生した地震や大雨などの自然災害の体験をもとに、本年度の避難訓練計画を見直し、実施した。日頃からの心構えや行動が大切であるという意識を高め、今後も訓練等の更なる充実を図る。</p>
	生活指導の工夫	3.39	3.15	3.33	
	危機回避能力の育成	3.76	3.30	3.39	
	自主的・自発的に活動する児童の育成	3.53	3.16	3.26	

評価項目		方策・手立て	評価		学校 評価	結果の考察・分析及び改善策等
			児童	保護者		
たくましい体づくり	健康診断後の指導の充実	健診結果をふまえた保健指導を推進し、肥満指導や治療率の向上を図り、健康意識の向上を図る。	3.67	3.38	3.33	むし歯治療率は現在51%で、昨年度よりも高い結果となった。家庭への啓発を粘り強く行った成果が表れていると考えられる。 早寝・早起き等の習慣が乱れ、望ましい生活習慣が定着していない児童が見られる。今後も保護者へ啓発を継続的に行い、健康安全意識の向上に努めていく。 児童の安全を最優先に考え、熱中症対策を厳重に行った。その結果、熱中症になる児童はほぼいなかったが、昼休みの外遊びができない期間が長く続いた。夏の校時程について検討する必要がある。 給食のアレルギー対応では、マニュアルを遵守し、絶対に事故を起こさないよう努めている。
	健康安全教育の充実	「早寝・早起き・朝ご飯」の実践や学校保健委員会の実施、保健だよりの発行を通して、健康安全意識の向上を図る。	3.40	3.25	3.25	
	スクールスポーツプランの推進	運動会、持久走大会や縄跳び大会等、目標となる取組を設定し、運動意欲の向上を図る。[自ら考え、人と一緒に学ぶ幸]	3.57	3.23	3.11	
	食に関する指導の推進	給食指導を核として、「食」に関する指導の充実を図る。	3.67	3.27	3.11	
家庭・地域との連携	家庭や地域への情報発信の充実	学校だよりの発行やホームページの内容を常に更新させ、学校の情報発信に努める。	3.48	3.31	3.43	学校だよりの発行や学校ホームページを通じて、必要な情報を発信している。また、電子メールを活用した電子媒体での配付により、文書や情報等を保護者に確実に届けることができた。今後も、ネットワーク活用の充実を図っていく。 スマートフォンやタブレット、ゲーム機器等の利用により生活習慣が乱れ、中には依存的な児童も見られる。学校での情報モラル教育や家庭への啓発を継続的に行い児童や保護者の意識向上に努めていく。 授業参観の出席率は概ね良好であったが、学級懇談の出席率は全体的に高くなかった。 本年度も、地域学校協働活動推進員との連携が図られ、地域人材を活用した様々な活動を行うことができた。
	情報モラルの育成	情報モラルに関する授業やメディアコントロールの大切さについて、親子で意識を高める機会の充実に努める。	3.58	3.12	3.32	
	家庭との連携の充実	学校と保護者が密に連携し、課題について実態を共有し、解決に向かって寄り添うことに努める。	3.48	3.21	3.39	
	地域との連携の充実	地域学校協働活動推進員の積極的な活用により、ふるさとを愛する教育活動の充実に努める。	3.42	3.15	3.38	

学校運営協議会委員のご意見等

- ・ 不登校や登校しぶりの児童に対して、日々熱心な対応をしてもらっていて本当にありがたいと思う。いじめに関しては、これまで以上にアンテナを高くし、児童のために最優先に考えて継続的に取り組んでほしい。
- ・ 児童の帰宅後の過ごし方や自転車の乗り方については、児童の安全、命を守るため、生徒指導主事を中心に全職員で指導にあたってほしい。保護者に対して、危険な遊び道具（エアガン等）を与えないよう伝えてほしい。
- ・ スマートフォンやタブレットに関しては、利用を制限するのではなく「よい使い方の指導」を行ってほしい。
- ・ 学級懇談の出席率を上げるため、学級懇談の内容や話題を工夫したり、保護者同士が話す機会を設定したりしてほしい。また、PTA会長から学級懇談参加を呼びかける記事を掲載すると、意識が変わるのではないか。

